

保健・医療社会学研究会会報

— No. 10 —

目 次

I 論 壇	1
II 隣接学会・研究会の動向	3
III 本研究会の研究活動	9
IV 会員の研究活動	10
V 書 評	17
VI 編集後記	23
VII 規 約	24

1984年7月

保健・医療社会学研究会

事務局：東京大学医学部保健社会学教室内

〒113 東京都文京区本郷7-3-1

電話 03(812)2111内線 3513

Ⅱ 中華人民共和国における 保健・医療社会学の研究動向

田辺義明

英語の「Medical Sociology」は、中国において「医学社会学」と翻訳される。その医学社会学は現在、社会学の応用諸領域の内でも研究・教育体制の確立に、取り分け力が注がれている分野である。周知のように同国では「社会学」全体の研究活動が永らく停止されており、その再開は1979年に至っての事であった。さらに、保健・医療社会学の範疇に属すると云える研究業績が公表され

始めたのは、2年後の81年であり、その歴史は極めて浅い。

81年12月、医学関係の学術団体による「全国医学弁証法学術討論会（第1回）」が南京において開かれた。この会議の席上、北京医学院学史研究室の阮芳賦は「医学社会学の対象・内容と意義」（注1）と題する報告を行ない、医学社会学の枠組と方法を社会医学のそれとの対比によって規定した。その報告を契機として、中国自然弁証法研究会（会長：于光遠）医学専門委員会の中に、「医学社会学研究部会」が設置され、組織的な研究活動が開始された。同部会は機関誌（注2）を創刊すると共に、北京、ハルビン、南京などに相次いで支部を作り、農村の医療事情調査、リハビリ医療の必要性調査、病院の不正診療調査などに着手した。またこの81年には、李恩昌による「医学社会学初探」（注3）が学術誌上に掲載されたほか、劉安求「精神病と社会」（注4）などの論文も発表された。これらは主として、疾病とその社会的背景との関係を論じたものである。

翌82年5月、中国社会学会（会長：費孝通）の第1回年次大会が武漢において挙行された。この大会では医学社会学に関する議論も交され、その内で中国社会学会理事の劉宗秀は、医学社会学の当面する研究課題として25項目を列挙した。この25項目には医療組織における人間関係の諸問題が多く含まれている。（注5）その劉宗秀は現在、黒龍江省衛生庁に所属し、医学社会学の方面では全国的にも指導的立場の人物である。彼は永らく地方の医事行政を担当していたと云う。この82年の年次大会と、続く「社会学研究計画会議」を経て、中国社会学会においても医学社会学研究部会は下部研究組織として正式に承認された。また同年には、前記の不正診療調査に関連する報告「病院不正情況の調査」（注6）も発表され、同国の医療機関にも多様な形態の不正行為が発生する事を明ら

かにした。

83年8月、黒龍江省の省部ハルビンにおいて、初回の「全国医学社会学講習会」が開講され、各地の医学校、研究機関そして行政部門から90名以上の受講者を集めた。これは約1ヶ月の期間に、いわゆる集中講義によって医学社会学の専門家を速成する事を目的としており、何よりも現在この分野の研究・教育要員の養成が急務とされている事の現われでもある。中国衛生部（我が国の厚生省に相当）は講習会を企画するに当り、その運営を黒龍江省衛生庁に委託したが、これは先の劉宗秀が省衛生庁の主要な役職（注7）にあった事に由来しよう。ハルビン在住の劉宗秀に限らず、既出「医学社会学初探」の著者李恩昌も地方機関（注8）に勤務しており、この分野の研究をリードする人々が中央ばかりでなく、地方に分布している事も注目される。

現在同国において社会学系（社会学部に相当）を有する大学は、北京大学、上海大学（注9）、中山大学の3校であるが、これらの内で最初に学部開設して上海大学には、将来の医学社会学研究者を目指す学生達が学んでいる。彼らは著名な新進社会学者顧曉鳴の指導下にあり、論文「医療と社会の総合的研究について」（注10）は医学とそれに関連する社会科学諸領域の関係を扱った彼らによる労作である。

このように中国における保健・医療社会学の研究活動は緒に着いたばかりである。しかし同国の研究者が有するフィールドは豊饒であり、かつ他に例のないものである。例を挙げるならば、地域社会には「赤脚医生（裸足の医者）」と呼ばれるプライマリー・ケア担当者を底辺とする独自の医療制度が確立され、また医療の技術には東洋医学の伝統が今もなお生き続けている等々である。今後はそれらに関するユニークな研究も期待されよう。（文中敬称略）

注

1. 阮芳賦による同名の論文は、『医学と哲学』82年第4期所収。
2. 『医学社会学研究通訊』（非公開）。
3. 『医学と哲学』81年第3期。
4. 『社会科学戦線』81年第2期。
5. これらに関しては、阮芳賦による論文「社会医学と医学社会学」『百科知識』82年第9期が詳しい。
6. 『社会』82年第3期。
7. 82年の時点では「省衛生庁副庁長」。
8. 陝西省武功県風安病院。
9. 復旦大学分校が改称。
10. 『社会』83年第6期，論文の著者は夏国美ら。